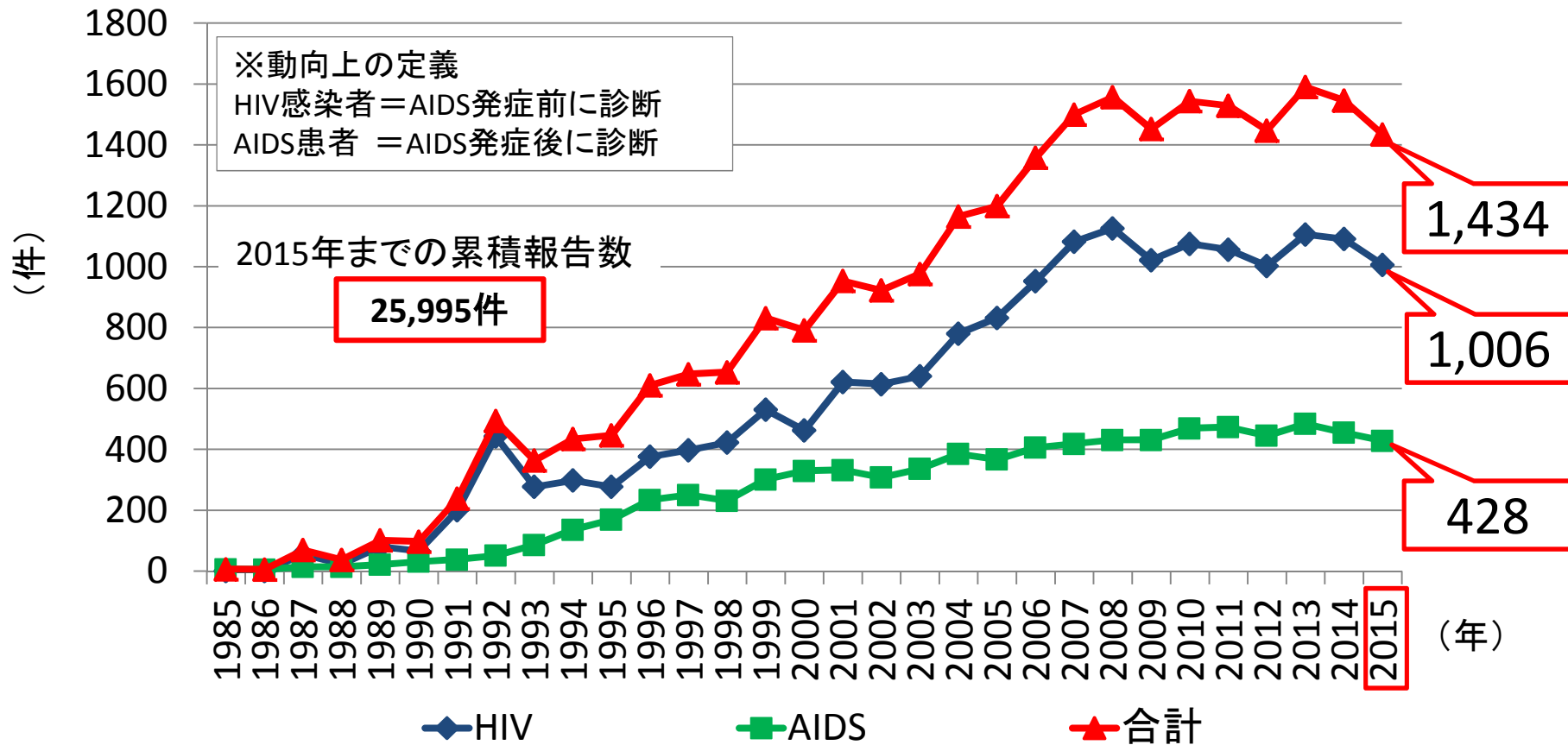


エイズ・性感染症の近年の発生動向

日本のエイズ発生動向（1）

新規HIV感染者・AIDS患者報告数の年次推移

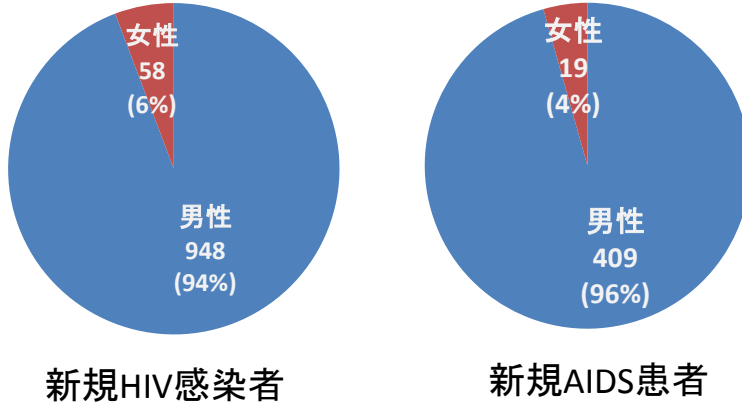
出典：厚生労働省エイズ動向委員会



1990年代～2000年代においては、新規HIV感染者報告数は増加傾向にあったが、2008年以降は横ばい傾向に転じている。一方、新規エイズ患者報告数は未だ減少傾向にはない。

日本のエイズ発生動向 (2)

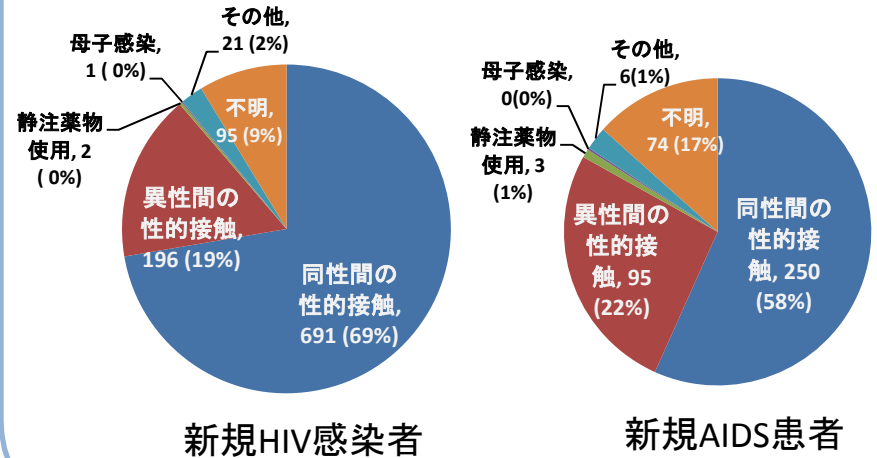
新規HIV感染者・AIDS患者の性別内訳 (2015年)



出典: 厚生労働省エイズ動向委員会

HIVにおいても、AIDSにおいても、9割以上を男性が占める。

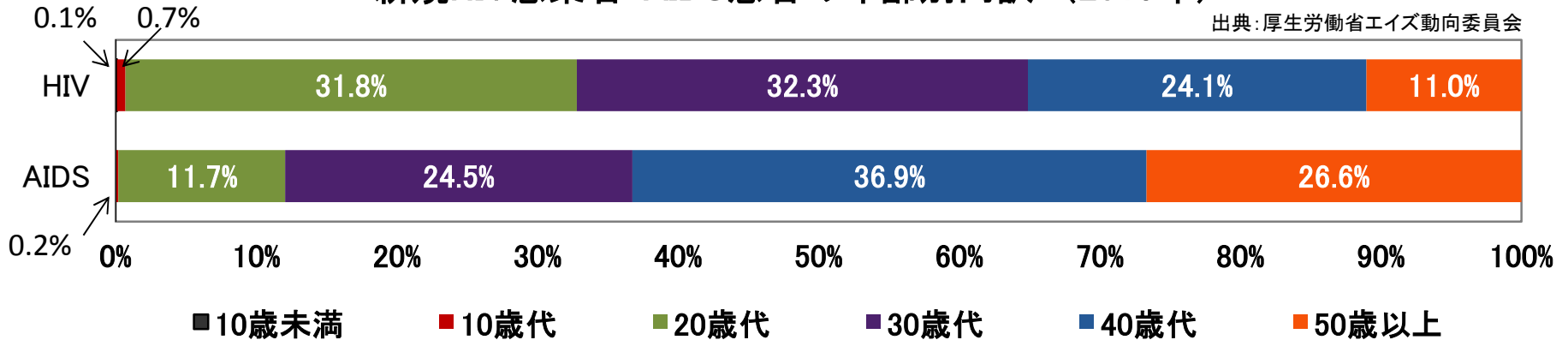
新規HIV感染者・AIDS患者の感染経路別内訳 (2015年)



出典: 厚生労働省エイズ動向委員会

過半数が同性間の性的接触による。

新規HIV感染者・AIDS患者の年齢別内訳 (2015年)



出典: 厚生労働省エイズ動向委員会

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%とまらない。

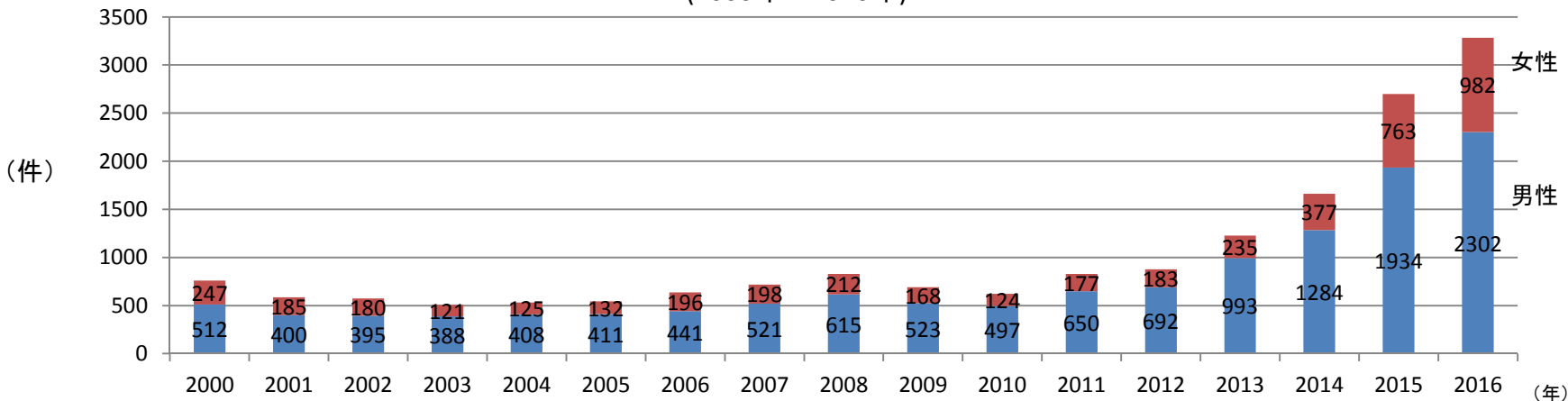
HIV感染症は20～30歳代、AIDS患者は30～40歳代が多い。

日本の性感染症の発生動向（1）

梅毒報告数年次推移（男女別）

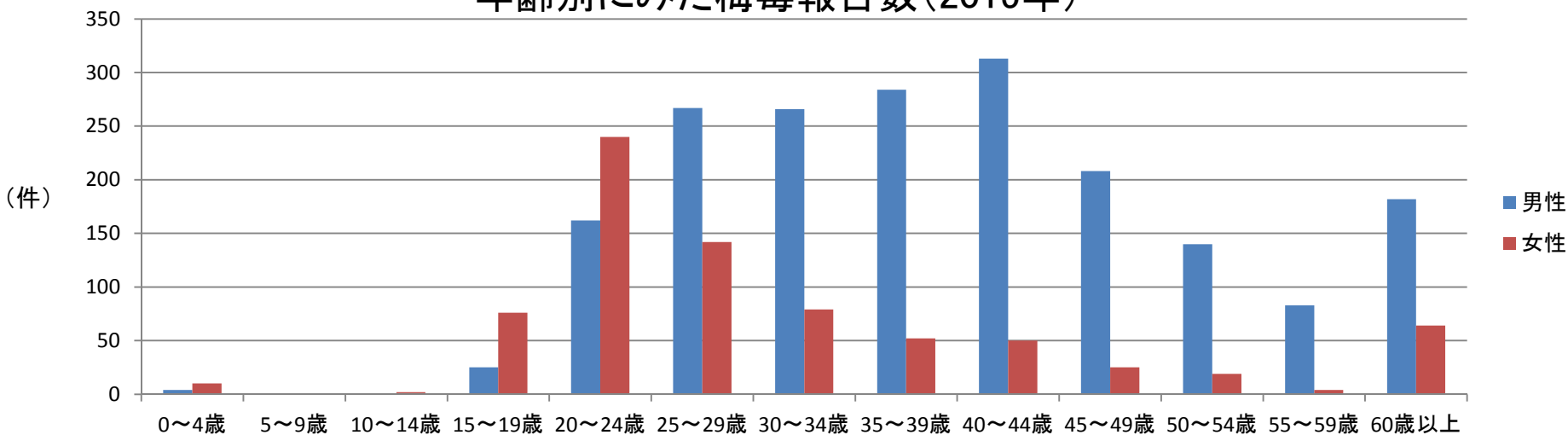
（2000年～2016年）

2010～2014年は感染症発生動向調査事業年報による。
2015年、2016年は2016年10月11日時点集計値（暫定値）
2016年は2016年第1週から39週までの報告を対象。



2010年以降、梅毒症例の報告数は増加を続けており、
そのうち女性の占める割合も2013年以降増加しています。

年齢別にみた梅毒報告数（2015年）



男性は20～40歳代、女性は20歳代の報告が多い。

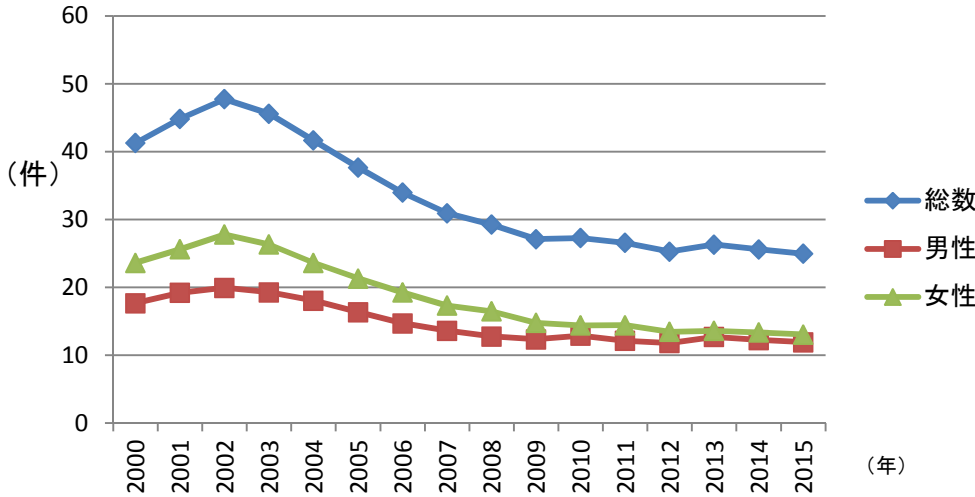
日本の性感染症の発生動向（2）

定点あたり報告数年次推移（男女別）

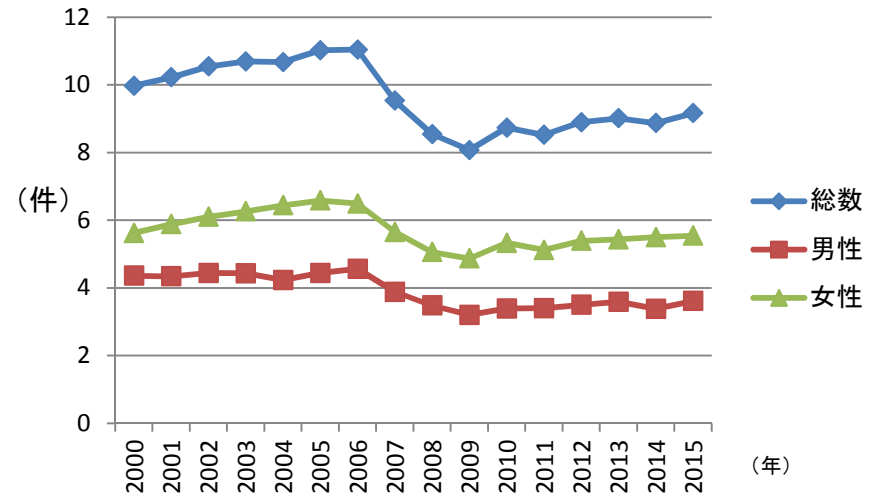
2010～2014年は感染症発生動向調査事業年報による。
2015年、2016年は2016年10月11日時点集計値（暫定値）

(2000年～2015年)

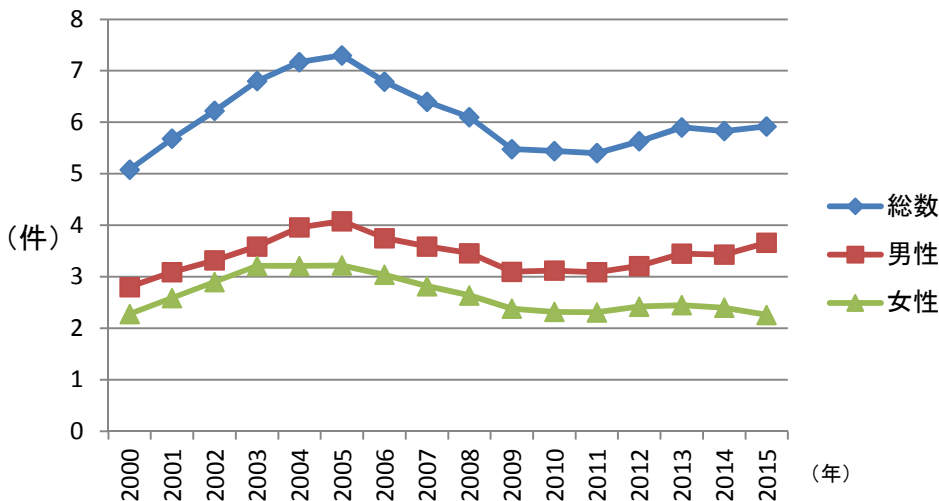
性器クラミジア感染症



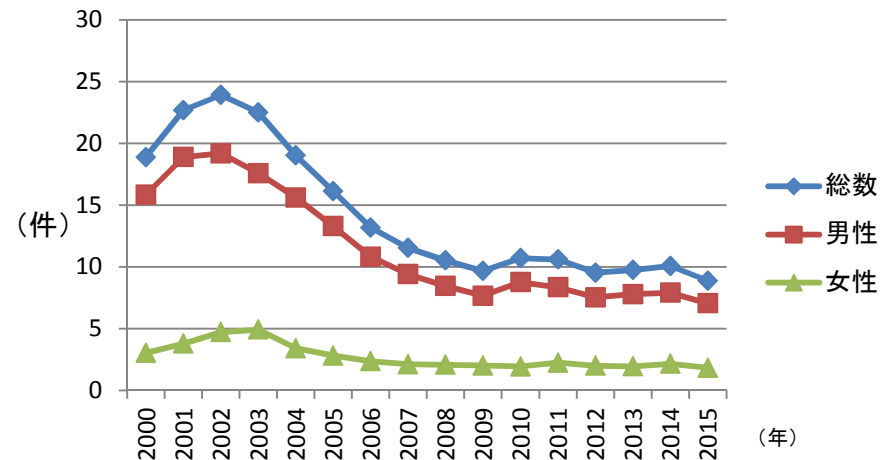
性器ヘルペスウイルス感染症



尖圭コンジローマ



淋菌感染症



性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の定点医療機関あたりの報告数は、ここ数年おおむね横ばいで推移している。